

AR-60ST8D 8ch 動ひずみ/DC 電圧入力モジュールに関して

AR-60ST8D は、AR-60ST8 シリーズの後継モデルです。

(1) 仕様比較

項目	AR-60ST8	AR-60ST8D
チャンネル数	8	同じ
コネクタ	Binder719 5ピン Female	同じ
コネクタピン配列	ひずみ入力モード 1: BV + (ブリッジ電圧: + 2 V 供給端子) 2: V IN + (ひずみ信号非反転入力) 3: SHIELD (シールド端子) 4: V IN - (ひずみ信号反転入力) 5: BV - (ブリッジ電圧: 0 V 供給端子) DC 入力モード 1: NC (接続しない) 2: IN + (不平衡電圧入力プラス側) 3: COM (不平衡電圧入力 COM 側) 4: NC (接続しない) 5: NC (接続しない)	同じ
適合ゲージ	120 ~ 1k Ω	同じ
入力インピーダンス	1 M Ω以上 (差動入力時) ただし信号源抵抗許容範囲 数 10Ω ~ 数百Ω	同じ
印加電圧	2 V DC	同じ
バランス方式	電子式バランス、入力レンジの±700%以内	同じ
入力レンジ	± 1000, 2000, 5000, 10000, 20000 μST ± 0.5, 1, 2, 5, 10 V	同じ
ローパスフィルタ	20, 50, 100, 200, 500, 1k, 2kHz, Pass (AR-60ST8D) または、10, 30, 50, 100, 300, 500, 1kHz, Pass (AR-60ST8DK) -48 dB/Oct Butterworth(スイッチドキャパシタ方式) チャンネル独立、コマンド切り替え	20, 50, 100, 200, 500, 1k, 2kHz, Pass (AR-60ST8D) または、10, 30, 50, 100, 300, 500, 1kHz, Pass (AR-60ST8DK) -48 dB/Oct Butterworth(100 kHz オーバーサンプリングとDSPによる IR デジタルフィルタ方式) チャンネル独立、コマンド切り替え
非直線性	± 0.2 % FS	同じ
周波数特性	0 ~ 10 kHz -3 dB	同じ
ADC	16-bit 逐次比較方式 ADC x 8, チャンネル毎 ADC による同時サンプリング	同じ
出力データ形式	2 バイト内部整数形式 25000 = レンジ 100%	同じ
レベルトリガスタート機能	チャンネル毎絶対値設定、2%刻み、設定チャンネル間 OR 動作	同じ
パラメータ保持機能	あり、アンプモジュール内部の不揮発領域に記録	同じ
電源および消費電流	DR-600 本体より供給、約5W	同じ
外形寸法	24.8W x 95H x 151.5D mm (突起部除く)	同じ
質量	0.23 kg	同じ
動作温度範囲	- 10 ~ 60 °C (結露なきこと)	同じ
耐振動特性	10G, 30 ~ 200 Hz	同じ
税抜き希望小売価格	360,000 円	370,000 円

(2) 注意事項

AR-60ST8D が使用できる DR-600 本体バージョン

DR-600 フロントパネル左側下部、リアパネル左側下部に下記のいずれかのシールのある本体で AR-60ST8D の使用が可能です。



金色のシールで左側をカットした形状のシール

- 左側の黒丸のあるシールが貼り付けられた本体が最新ファームウェアバージョンです。
- 黒丸のないシールのバージョンでも、AR-60ST8D の仕様は可能ですが、AR-60CAN シリーズ(CAN データの取得用の入力モジュール)をサポートしていません。
- 黒丸無しから黒丸バージョンへのバージョンアップは、お客様サイトにて可能です。当社までご相談下さい。

同一 DR-600 本体内での混在使用

上記のシールのバージョンでは、AR-60ST8D/AR-60ST8 とともに使用可能です。ただし、原則同じユニット内では AR-60ST8D または AR-60ST8 のみの使用をお願いします。

同じユニット内で混在されてご使用される場合は、次の点をご留意下さい。

AR-60ST8D においては 100 kHz オーバーサンプリング方式を採用しているため、混在している AR-60ST8 のチャンネル群と、AR-60ST8D のチャンネル群では、最大 1 サンプリング以内のずれが発生する可能性があります。(同チャンネル群では同サンプリング)

2 台同期運転

AR-60ST8D を実装した本体の組み合わせの場合、AR-60ST8D を実装した本体をマスター側として下さい。

複数台同期運転

AR-60ST8D を実装した本体がマスター側/スレーブ側ともにある場合は、同期ユニットが、SN-6XD と下一桁に D のついた型式であることが必要です。

AR-60ST8D を実装した本体がマスター側で、スレーブ側には一切 AR-60ST8D を実装した本体が含まれていない場合は、旧同期ユニット(D が付いていないもの)を使用することができます。

バージョンアップに関して

現在出荷されている DR-600 に関しては、バージョンアップ不要で AR-60ST8D の使用が可能です。

初期の DR-600 について、前ページのシール以外の DR-600 では、AR-60ST8D をご使用いただくためには、当社に戻していただくのバージョンアップが必要です。

AR-60ST8D ご購入にあたって、DR-600 本体バージョンアップは、無償改造作業を実施させていただきます。

SN-6X、D 付きでない同期ユニットを SN-6XD に変更する必要がある場合は、別途当社までご相談いただけますようお願い申し上げます。